資料２

米に関するマンスリーレポート

（平成25年1月11日公表）

農林水産省

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

１．「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

２．本レポートは、原則として公表２営業日前までの公表資料を反映しています。

３．本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課
担当者：岩井、村松、鬼海
代表：03-3502-8111（内線4975）
ダイヤルイン：03-6738-8973
FAX：03-6738-8976

目　次

Ⅰ　米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成24年12月）　・・・・・・・・・１

Ⅱ　集出荷・卸段階の動向
（１）相対取引価格・数量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成24年11月）
② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成24年産米）
③ 相対取引価格（年産別）
④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成24年11月）
（２）民間在庫の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
①　出荷段階
②　販売段階
（３）米の先物取引価格の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
（４）業者間取引の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
① 日本コメ市場（随時取引の結果）
② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
（５）㈱加工用米取引センターの取引結果・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

Ⅲ　小売・消費段階の動向
（１）消費者物価指数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（２）小売物価統計の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（３）小売価格の推移（ＰＯＳデータ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
（４）購入数量の推移（家計調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
（５）米の消費動向（米穀機構による調査）・・・・・・・・・・・・・・・・１８

Ⅳ　生産段階の動向
（１）国産米（水稲）の作況・収穫量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（２）平成24年産水陸稲の収穫量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（３）加工用米及び新規需要米の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
① 加工用米の生産量
② 新規需要米の用途別認定状況
（４）水稲うるち玄米の検査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
① 検査数量及び等級比率（年産別）
② 水稲うるち玄米の1等比率の推移
Ⅴ　民間流通における６月末在庫の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
Ⅵ　備蓄米及びMA米の動向
（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量・・・・・・・・・・・・・・・・２７
① 24年産国内産米穀の政府買入入札の結果
② 国内産備蓄米の売渡数量
③ 政府備蓄米の在庫の状況（平成24年6月末現在）
④ 23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量
（２）ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
① ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）
② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況(平成24年度)
③ ＳＢＳ米の販売状況(平成24年度)

Ⅰ　米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成24年12月)

○　米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をＤＩとして算出したものである（詳細はＰ５）を参照）。

１．国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（全体）

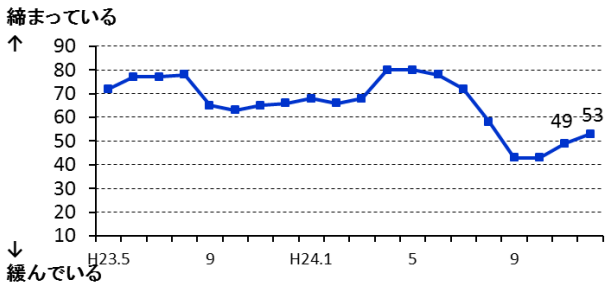
①主食用米の需給動向

（ア）現状判断ＤＩ
前月からの増減　＋４　（今月の数値　５３）

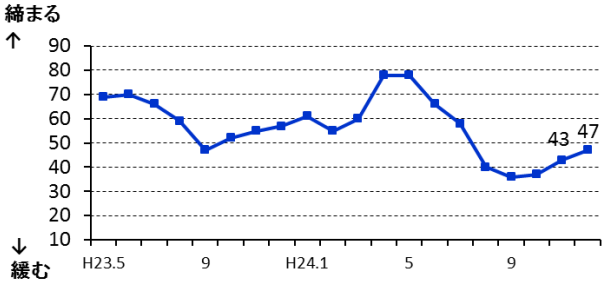
（イ）見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）
前月からの増減　＋４　（今月の数値　４７）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

①-ア 国内の主食用米の"現在の需給動向"について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の"向こう3ヶ月の需給動向"について、どうなると考えていますか。(全体)



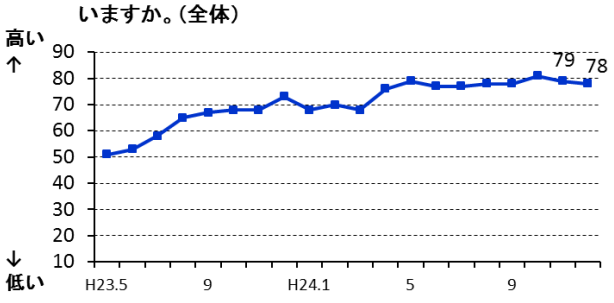
②主食用米の米価水準

（ア）現状判断ＤＩ
前月からの増減　－１　（今月の数値　７８）

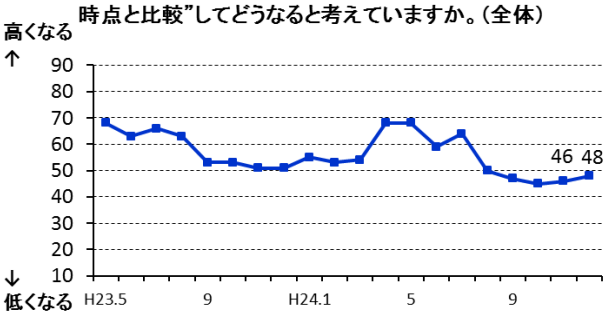
（イ）見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）
前月からの増減　＋２　（今月の数値　４８）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。

②-ア 国内の主食用米の"現在の米価水準"について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の"向こう3ヶ月の米価水準"について、"現時点と比較"してどうなると考えていますか。(全体)



③　取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H23.5	3%	33%	12%	－	17%	7%	28%
H23.6	5%	38%	8%	－	20%	8%	20%
H23.7	7%	34%	11%	－	12%	8%	28%
H23.8	14%	28%	7%	－	19%	7%	25%
H23.9	22%	23%	4%	－	23%	7%	21%
H23.10	22%	23%	3%	－	27%	6%	19%
H23.11	14%	18%	3%	－	34%	10%	21%
H23.12	8%	11%	2%	46%	22%	3%	8%
H24.1	6%	14%	3%	48%	19%	2%	8%
H24.2	4%	17%	2%	48%	20%	3%	6%

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H24.3	2%	14%	4%	54%	18%	2%	6%
H24.4	2%	9%	2%	69%	8%	5%	6%
H24.5	2%	13%	4%	66%	8%	4%	2%
H24.6	1%	15%	3%	61%	9%	6%	6%
H24.7	4%	22%	1%	62%	3%	3%	5%
H24.8	20%	10%	2%	46%	12%	3%	6%
H24.9	30%	4%	0%	44%	11%	4%	6%
H24.10	20%	10%	3%	40%	19%	6%	2%
H24.11	11%	11%	3%	49%	16%	7%	3%
H24.12	9%	11%	2%	51%	17%	5%	5%

2．自社の取引状況に関する判断（業態毎）

①主食用米の販売数量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」／「(将来)増える」 という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「減った」／「(将来)減る」 という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の販売数量に関する現状判断ＤＩ

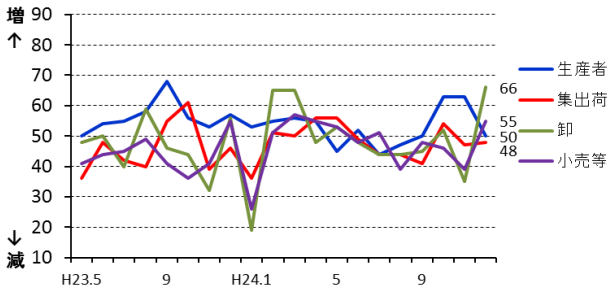
ａ．先月との比較

生産者：前月からの増減　－１３（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　＋１　（今月の数値　４８）
　卸　：前月からの増減　＋３１（今月の数値　６６）
小売等：前月からの増減　＋１６（今月の数値　５５）

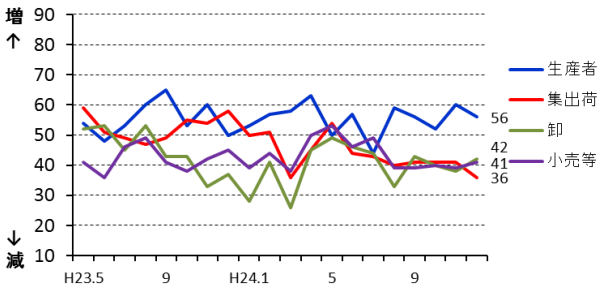
ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－４　（今月の数値　５６）
集出荷：前月からの増減　－５　（今月の数値　３６）
　卸　：前月からの増減　＋４　（今月の数値　４２）
小売等：前月からの増減　＋２　（今月の数値　４１）

①-ア-a 貴社の”今月”の主食用米の”販売数量”について、”先月と比較”するといかがですか。



①-ア-b 貴社の”今月”の主食用米の”販売数量”について、”前年同月と比較”するといかがですか。



（イ）来月の販売数量に関する見通しＤＩ

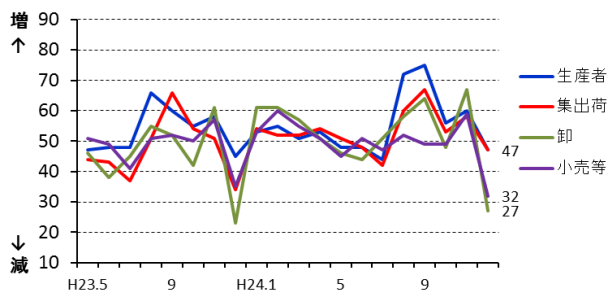
ａ．今月との比較

生産者：前月からの増減　－１３（今月の数値　４７）
集出荷：前月からの増減　－１１（今月の数値　４７）
　卸　：前月からの増減　－４０（今月の数値　２７）
小売等：前月からの増減　－２７（今月の数値　３２）

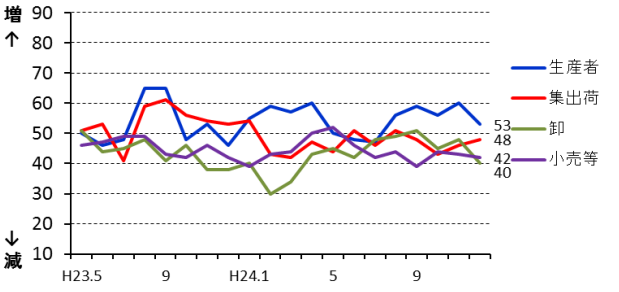
ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－７　（今月の数値　５３）
集出荷：前月からの増減　＋２　（今月の数値　４８）
　卸　：前月からの増減　－８　（今月の数値　４０）
小売等：前月からの増減　－１　（今月の数値　４２）

①-イ-a 貴社の”来月”の主食用米の”販売数量”について、”今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の”来月”の主食用米の”販売数量”について、”前年 同月と 比較”してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の価格に関する現状判断ＤＩ

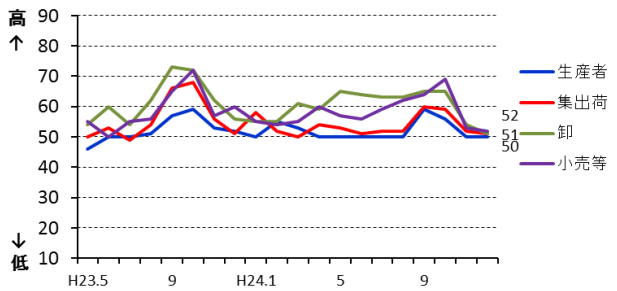
ａ.先月との比較

生産者：前月からの増減　±０　（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　－１　（今月の数値　５１）
　卸　：前月からの増減　－３　（今月の数値　５１）
小売等：前月からの増減　－１　（今月の数値　５２）

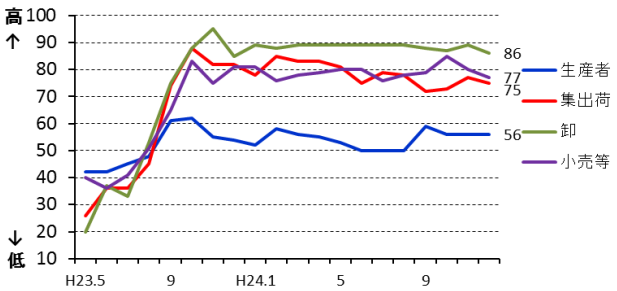
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　±０　（今月の数値　５６）
集出荷：前月からの増減　－２　（今月の数値　７５）
　卸　：前月からの増減　－３　（今月の数値　８６）
小売等：前月からの増減　－３　（今月の数値　７７）

②-ア-a 貴社の”今月”の主食用米の”価格”について、”先月と比較”するといかがですか。



②-ア-b 貴社の”今月”の主食用米の”価格”について、”前年同月と比較”するといかがですか。



（イ）来月の価格に関する見通しＤＩ

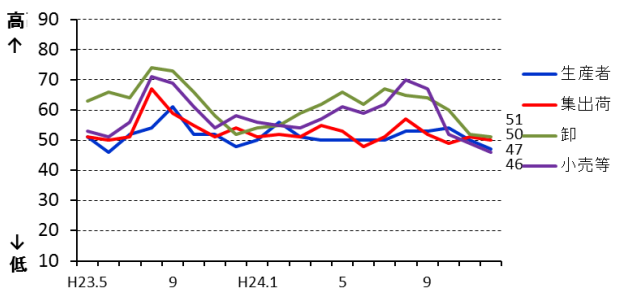
ａ.今月との比較

生産者：前月からの増減　－３　（今月の数値　４７）
集出荷：前月からの増減　－１　（今月の数値　５０）
　卸　：前月からの増減　－１　（今月の数値　５１）
小売等：前月からの増減　－３　（今月の数値　４６）

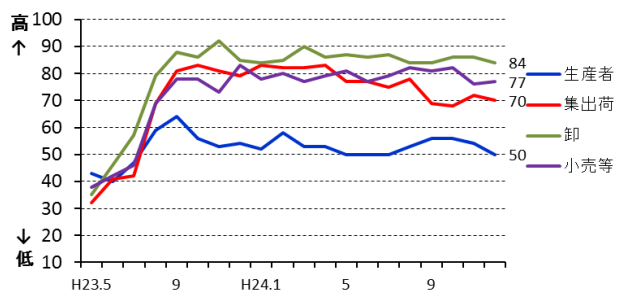
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－４　（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　－２　（今月の数値　７０）
　卸　：前月からの増減　－２　（今月の数値　８４）
小売等：前月からの増減　＋１　（今月の数値　７７）

②-イ-a 貴社の”来月”の主食用米の"価格"について、”今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の”来月”の主食用米の”価格”について、”前年同月”と比較してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「少なくなった」/「(将来)少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の在庫量に関する現状判断ＤＩ

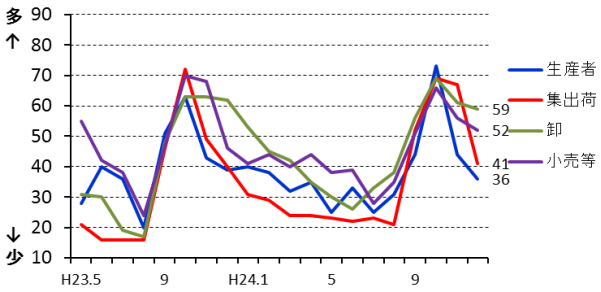
ａ.先月との比較

生産者：前月からの増減　－８　（今月の数値　３６）
集出荷：前月からの増減　－２６（今月の数値　４１）
　卸　：前月からの増減　－２　（今月の数値　５９）
小売等：前月からの増減　－４　（今月の数値　５２）

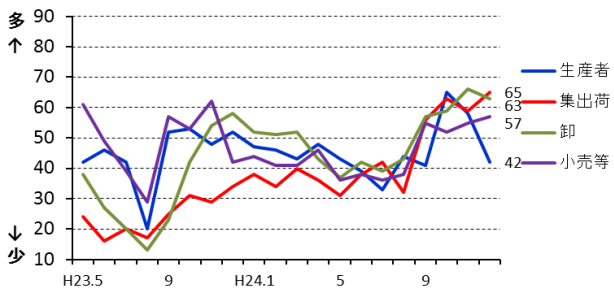
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－１６（今月の数値　４２）
集出荷：前月からの増減　＋６　（今月の数値　６５）
　卸　：前月からの増減　－３　（今月の数値　６３）
小売等：前月からの増減　＋２　（今月の数値　５７）

③-ア-a 貴社の”今月”の主食用米の”在庫量”について、”先月と比較”するといかがですか。



③-ア-b 貴社の”今月”の主食用米の”在庫量”は、”前年同月と比較”するといかがですか。



（イ）来月の在庫量に関する見通しＤＩ

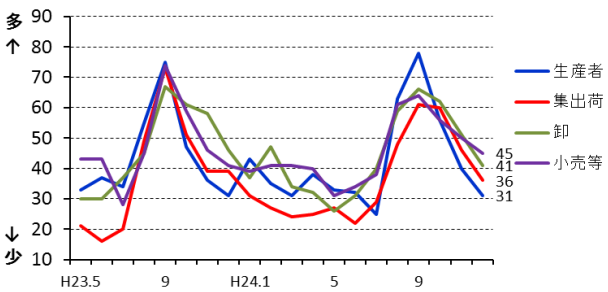
ａ.今月との比較

生産者：前月からの増減　－９　（今月の数値　３１）
集出荷：前月からの増減　－１０（今月の数値　３６）
　卸　：前月からの増減　－１０（今月の数値　４１）
小売等：前月からの増減　－５　（今月の数値　４５）

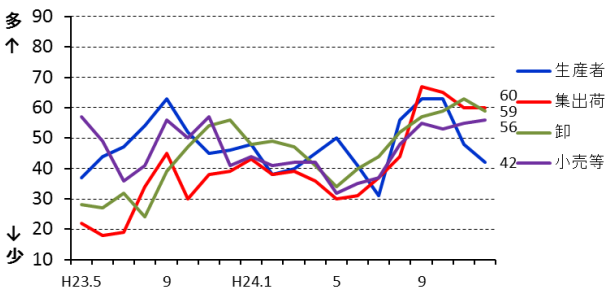
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－６　（今月の数値　４２）
集出荷：前月からの増減　±０　（今月の数値　６０）
　卸　：前月からの増減　－４　（今月の数値　５９）
小売等：前月からの増減　＋１　（今月の数値　５６）

③-イ-a 貴社の”来月”の主食用米の”在庫量”について、”今月と比較”してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の”来月”の主食用米の”在庫量”について、”前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

〇調査期間：毎月１日から２５日までの取引状況を踏まえて回答

〇調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

〇調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の１５４客体

〇有効回答数：１２６客体

生産者・・・・・・・・・・・・・・・９
集出荷業者／団体・・・・・・・・・３３
卸売業者（主に主食用米）・・・・３１
小売業者／中食・外食関係業者・・３５
その他・・・・・・・・・・・・・・１８

※「その他」は以下の業者を示している。
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

〇　表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しないことがある。

《ＤＩの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する５段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてＤＩを算出。

ただし、ＤＩの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じＤＩが算出されることに注意が必要である。

（ＤＩの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう３ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	＋1	＋0．75	＋0．5	＋0．25	0
構成比(B)	17．8	20．0	20．0	22．2	20．0
各DI(C＝A×B)	17．8	15	10	5．6	0
DI(合計)	48．4				

Ⅱ　集出荷・卸段階の動向

（１）相対取引価格・数量

①　相対取引価格（平成24年産米の主な産地銘柄別、平成24年11月）（速報）

（単位：円/玄米60kg）

産地	品種銘柄	（地域区分）	24年11月 ①	【参考】 24年10月 ②	対前月比 ①/②	23年11月 (23年産) ③	対前年同期比 ①/③
北海道	北海道	きらら397	15,351	15,350	(100%)	13,904	(110%)
	北海道	ななつぼし	15,414	15,383	(100%)	13,880	(111%)
東北	青森	つがるロマン	15,512	15,579	(100%)	13,433	(115%)
	青森	まっしぐら	15,152	15,357	(99%)	13,341	(114%)
	岩手	ひとめぼれ	15,926	15,893	(100%)	14,346	(111%)
	岩手	あきたこまち	15,947	15,858	(101%)	14,315	(111%)
	宮城	ひとめぼれ	16,203	16,413	(99%)	14,654	(111%)
	宮城	ササニシキ	16,717	16,623	(101%)	14,813	(113%)
	秋田	あきたこまち	16,808	16,942	(99%)	15,381	(109%)
	山形	はえぬき	16,144	16,302	(99%)	14,503	(111%)
	福島	コシヒカリ	会津 17,090	17,831	(96%)	16,003	(107%)
	福島	コシヒカリ	中通り 15,976	―	―	14,285	(112%)
	福島	コシヒカリ	浜通り ―	―	―	―	―
	福島	ひとめぼれ	15,607	15,781	(99%)	13,671	(114%)
関東・東山	茨城	コシヒカリ	16,638	16,432	(101%)	15,821	(105%)
	栃木	コシヒカリ	16,773	16,958	(99%)	15,579	(108%)
	埼玉	彩のかがやき	―	―	―	14,165	―
	千葉	コシヒカリ	16,895	16,864	(100%)	15,940	(106%)
	長野	コシヒカリ	16,647	16,544	(101%)	15,899	(105%)
北陸	新潟	コシヒカリ	一般 18,523	18,490	(100%)	18,178	(102%)
	新潟	コシヒカリ	魚沼 24,046	24,021	(100%)	23,111	(104%)
	新潟	コシヒカリ	佐渡 ―	18,859	―	18,724	―
	新潟	コシヒカリ	岩船 ―	18,844	―	18,620	―
	富山	コシヒカリ	16,982	17,071	(99%)	16,239	(105%)
	石川	コシヒカリ	16,867	16,900	(100%)	16,092	(105%)
	福井	コシヒカリ	17,026	17,135	(99%)	16,036	(106%)
	福井	ハナエチゼン	―	15,966	―	―	―
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般 16,862	―	―	15,941	(106%)
	滋賀	コシヒカリ	17,142	17,748	(97%)	15,855	(108%)
	滋賀	キヌヒカリ	15,912	―	―	15,105	(105%)
	兵庫	コシヒカリ	―	17,061	―	15,803	―
中国・四国	鳥取	コシヒカリ	16,582	―	―	―	―
	島根	コシヒカリ	16,851	17,249	(98%)	15,732	(107%)
	広島	コシヒカリ	16,375	16,464	(99%)	15,112	(108%)
	山口	コシヒカリ	―	16,909	―	―	―
	徳島	コシヒカリ	17,279	―	―	14,621	(118%)
	香川	ヒノヒカリ	―	―	―	14,573	―
	高知	コシヒカリ	―	―	―	―	―
九州	福岡	ヒノヒカリ	15,955	16,113	(99%)	14,710	(108%)
	佐賀	夢しずく	―	15,810	―	14,490	―
	熊本	ヒノヒカリ	―	16,776	―	―	―
	大分	ヒノヒカリ	16,444	16,711	(98%)	―	―
	宮崎	コシヒカリ	18,587	―	―	―	―
	鹿児島	ヒノヒカリ	―	―	―	―	―
全銘柄平均価格			16,518	16,579	(99.6%)	15,178	(109%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。）であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2：また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等（栽培方法等）の価格調整が行われることがある。

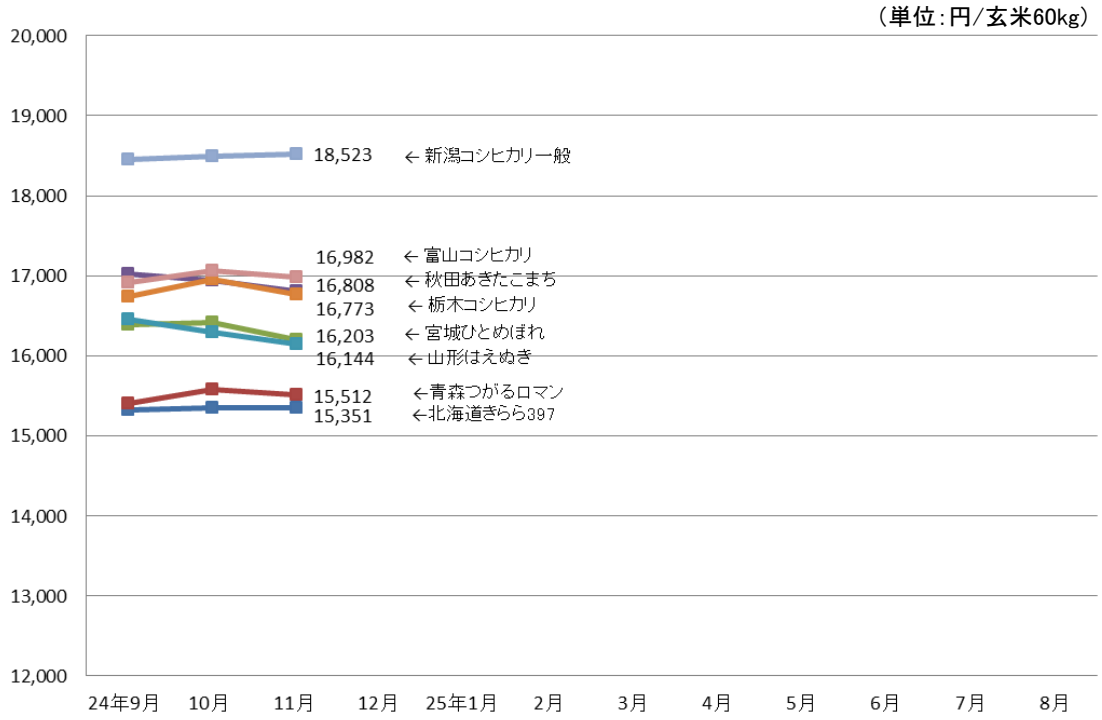
3：産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、23年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。

4：全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5：23年11月は23年産の価格である。

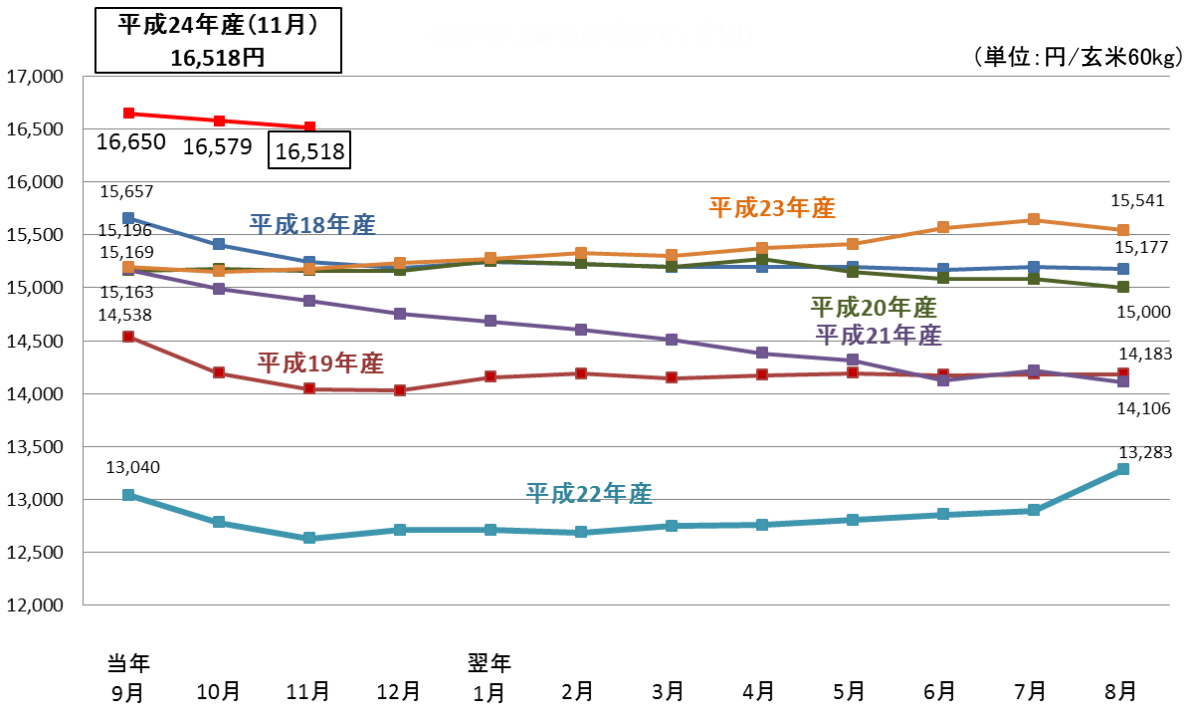
6：24年産については速報値である。

②　相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成24年産米）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。
2：月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

③　相対取引価格（年産別）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

④ 相対取引数量

（累積数量、平成24年産米の主な産地銘柄別、平成24年11月）（速報）

（単位：玄米トン）

産地	品種銘柄	（地域区分）	24年産（24年11月まで）①	（前年比）①/②	（前々年比）①/③	23年産（23年11月まで）②	22年産（22年11月まで）③
北海道	きらら397		89,315	(191%)	(540%)	46,770	16,552
北海道	ななつぼし		119,636	(147%)	(468%)	81,273	25,553
東北	つがるロマン		14,849	(120%)	(174%)	12,423	8,521
青森	まっしぐら		33,372	(130%)	(702%)	25,720	4,756
岩手	ひとめぼれ		68,312	(111%)	(343%)	61,705	19,898
岩手	あきたこまち		14,006	(104%)	(233%)	13,413	6,000
宮城	ひとめぼれ		83,487	(149%)	(502%)	56,149	16,646
宮城	ササニシキ		4,437	(112%)	(173%)	3,972	2,572
秋田	あきたこまち		34,406	(46%)	(96%)	74,349	35,710
山形	はえぬき		18,772	(63%)	(108%)	29,641	17,414
福島	コシヒカリ	会津	3,711	(105%)	(38%)	3,541	9,794
福島	コシヒカリ	中通り	5,489	(86%)	(60%)	6,418	9,170
福島	コシヒカリ	浜通り	68	(133%)	(2%)	51	3,713
福島	ひとめぼれ		6,299	(127%)	(61%)	4,962	10,368
関東・東山	茨城	コシヒカリ	19,692	(119%)	(160%)	16,503	12,273
栃木	コシヒカリ		20,550	(77%)	(123%)	26,640	16,689
埼玉	彩のかがやき		1,523	(42%)	(1348%)	3,605	113
千葉	コシヒカリ		29,316	(158%)	(205%)	18,543	14,295
長野	コシヒカリ		13,136	(80%)	(149%)	16,418	8,837
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	26,345	(40%)	(74%)	65,882	35,516
新潟	コシヒカリ	魚沼	5,827	(46%)	(97%)	12,731	5,984
新潟	コシヒカリ	佐渡	4,110	(39%)	(78%)	10,602	5,247
新潟	コシヒカリ	岩船	3,005	(38%)	(55%)	7,919	5,459
富山	コシヒカリ		42,562	(95%)	(213%)	44,815	19,939
石川	コシヒカリ		4,967	(69%)	(269%)	7,207	1,847
福井	コシヒカリ		8,656	(81%)	(96%)	10,683	9,002
福井	ハナエチゼン		12,171	(145%)	(144%)	8,395	8,461
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	5,014	(47%)	(138%)	10,714	3,626
滋賀	コシヒカリ		10,913	(110%)	(165%)	9,946	6,604
滋賀	キヌヒカリ		4,949	(115%)	(198%)	4,291	2,497
兵庫	コシヒカリ		3,153	(69%)	(78%)	4,601	4,038
中国・四国	鳥取	コシヒカリ	2,164	(75%)	(44%)	2,883	4,897
島根	コシヒカリ		8,274	(94%)	(118%)	8,845	7,036
広島	コシヒカリ		4,612	(104%)	(41%)	4,453	11,160
山口	コシヒカリ		3,614	(75%)	(72%)	4,835	4,994
徳島	コシヒカリ		8,331	(105%)	(125%)	7,927	6,644
香川	ヒノヒカリ		1,549	(78%)	(133%)	1,989	1,166
高知	コシヒカリ		3,591	(87%)	(121%)	4,112	2,978
九州	福岡	ヒノヒカリ	5,865	(113%)	(296%)	5,196	1,979
佐賀	夢しずく		3,153	(90%)	(160%)	3,512	1,973
熊本	ヒノヒカリ		2,083	(109%)	(180%)	1,903	1,160
大分	ヒノヒカリ		2,566	(156%)	(225%)	1,645	1,143
宮崎	コシヒカリ		8,152	(132%)	(136%)	6,176	6,002
鹿児島	ヒノヒカリ		997	(61%)	(441%)	1,641	226
全銘柄合計契約数量			948,797	(97%)	(188%)	976,159	504,057

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

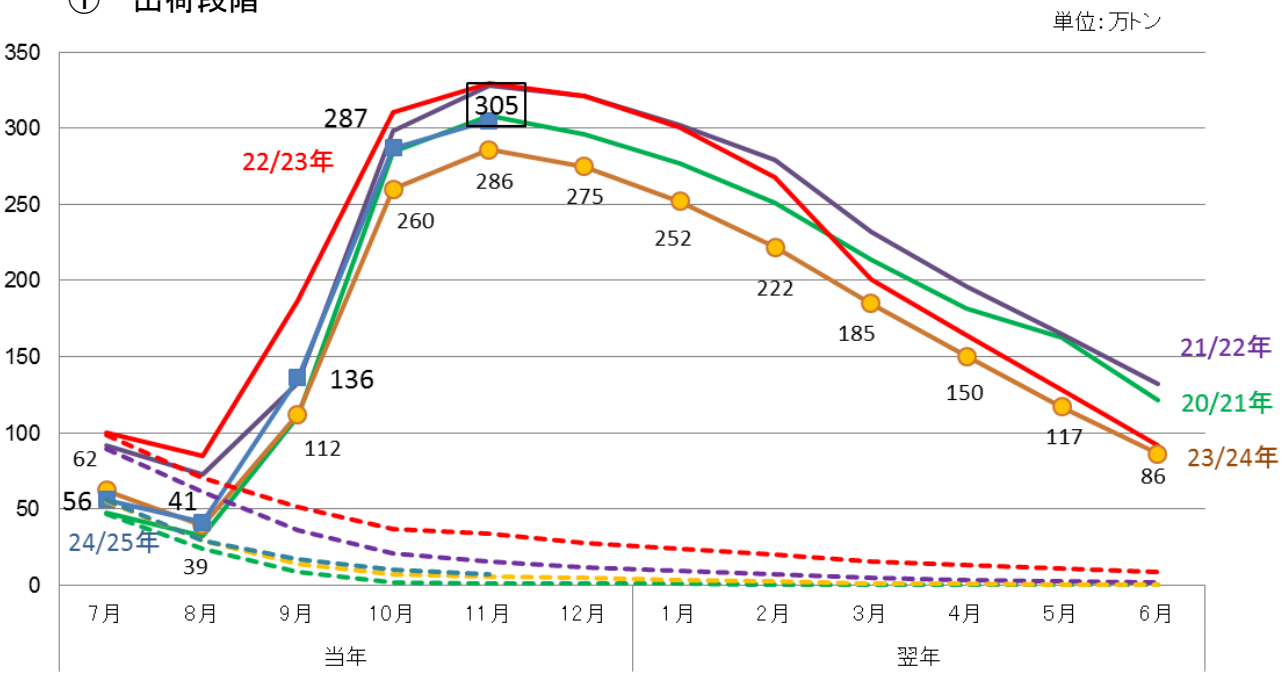
注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）を行った数量である。
なお、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、23年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

（２）民間在庫の推移

①　出荷段階



注：グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

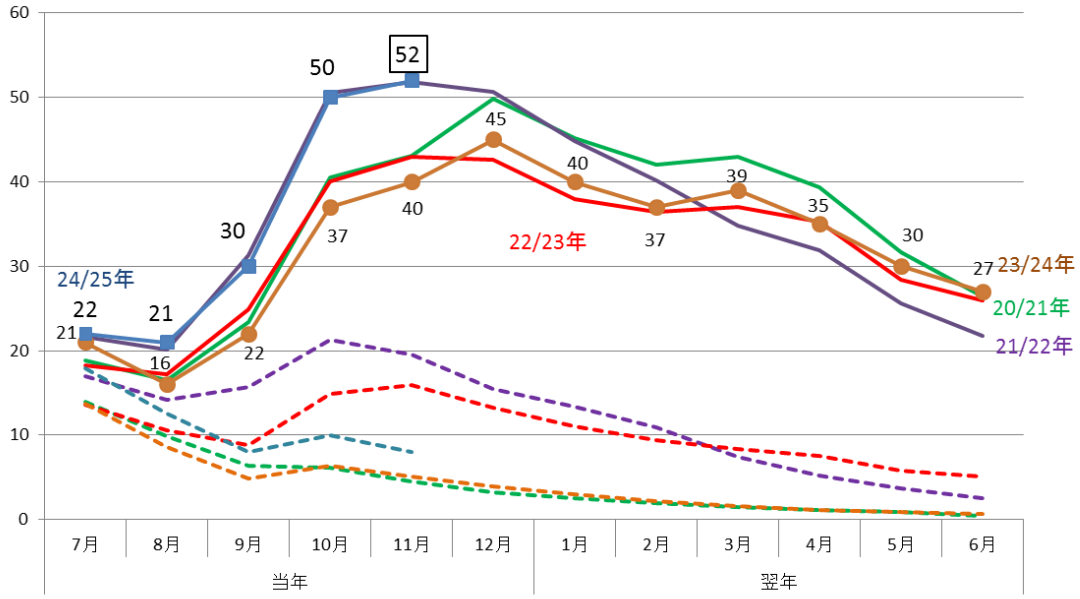
【出荷段階】　（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121
1年古米	46	23	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0
新米	1	8	101	281	305	293	275	249	212	181	162	121
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11
1年古米	90	61	36	21	15	11	9	7	5	3	2	2
新米	1	11	96	275	309	308	291	271	225	191	162	130
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40
1年古米	99	70	51	37	34	28	23	20	16	13	11	8
新米	0	13	134	271	294	291	276	247	184	151	117	82
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
1年古米	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
新米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
24/25年	56	41	136	287	305							
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19							
1年古米	55	29	17	10	7							
新米	0	12	118	274	296							

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年７月）、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」（20年８月～）
注１：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　２：米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
　３：期間については、23/24年であれば、23年７月～24年６月である。
　４：22/23年７月末以降は、速報値である。
　５：23年３月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
　６：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 販売段階

単位：万トン



注：グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

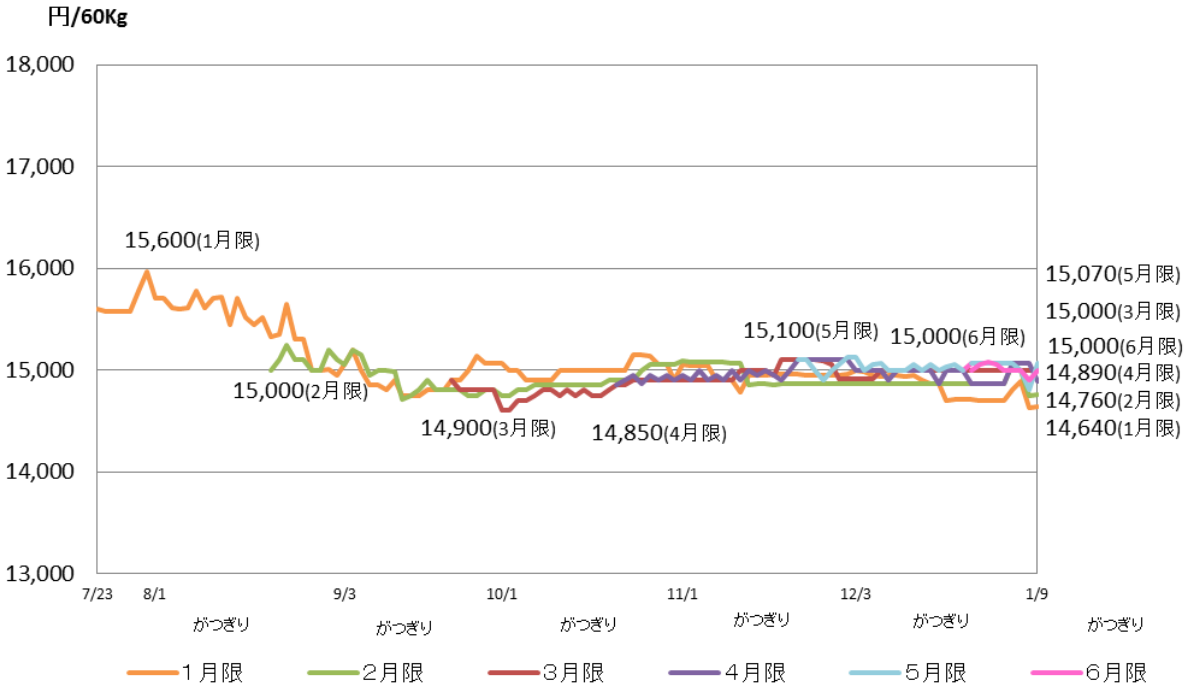
【販売段階】　（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26
1年古米	14	10	6	6	5	3	3	2	1	1	1	0
新米	0	3	12	26	28	36	34	32	34	32	26	21
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5
1年古米	17	14	16	21	20	15	13	11	7	5	4	3
新米	0	3	11	22	24	27	24	23	22	22	18	16
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4
1年古米	14	11	9	15	16	13	11	9	8	8	6	5
新米	0	3	12	19	21	23	21	22	24	23	19	17
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	+0	+2	+1
1年古米	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
新米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
24/25年	22	21	30	50	52							
対前年差	+1	+5	+8	+13	+12							
1年古米	18	13	8	10	8							
新米	0	4	17	32	35							

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年7月）
　　農林水産省「米穀の取引に関する報告」（20年8月～）
注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　2：米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
　3：期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
　4：22/23年7月以降の値は、速報値である。
　5：23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
　6：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

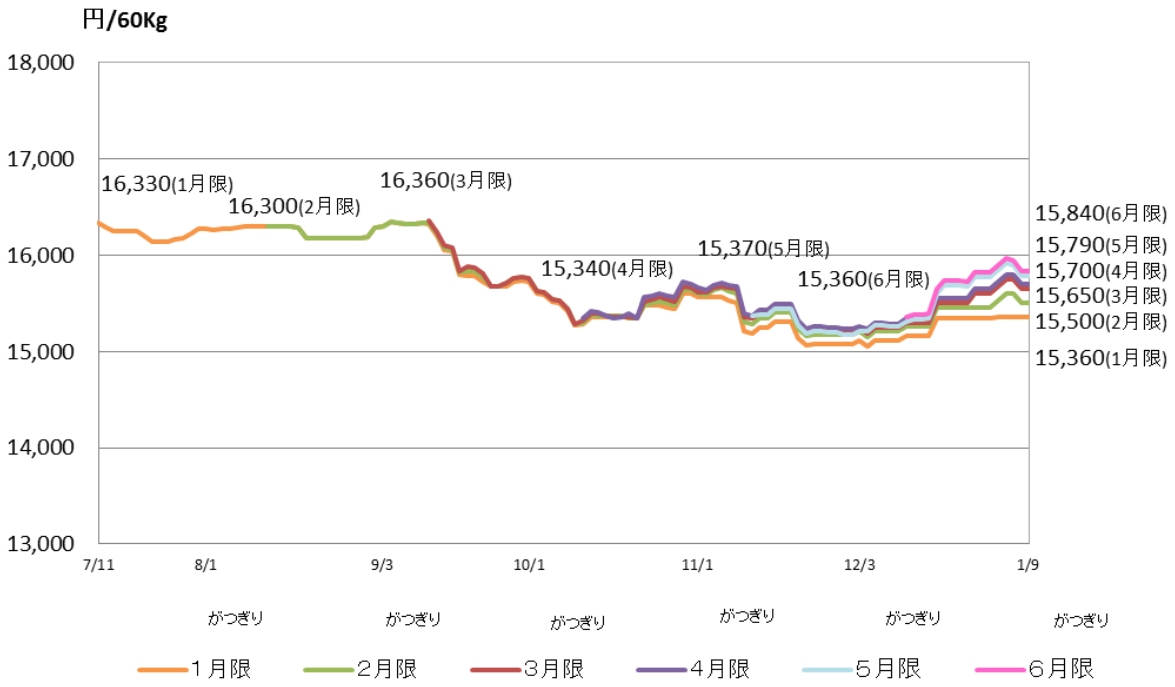
（３）米の先物取引価格の推移

①東京穀物商品取引所



出典：東京穀物商品取引所
注：取引開始から1月9日日中取引終了までの価格の推移である。

②関西商品取引所



出典：関西商品取引所
注：取引開始から1月9日後場第3節までの価格の推移である。

（４）業者間取引の状況

①　日本コメ市場（随時取引の結果）

○　価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄		9月下期	10月上期	10月下期	11月上期	11月下期	12月上期	12月下期
24年産	青森つがるロマン	－	15,116	－	－	－	－	－
24年産	秋田あきたこまち	16,331	16,309	15,976	16,119	16,113	16,233	－
24年産	宮城ひとめぼれ	－	－	16,045	15,800	－	16,285	－
24年産	福島中通りコシヒカリ	－	－	－	－	15,506	－	－
24年産	茨城コシヒカリ	15,847	－	－	16,060	－	－	15,900
24年産	栃木コシヒカリ	－	15,863	－	－	15,800	－	－
24年産	新潟コシヒカリ	－	－	17,108	－	17,395	－	－

出典：日本コメ市場株式会社HP
注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
2：上記価格は、日本コメ市場㈱の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
4：「－」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

②　日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
（主たる銘柄の成約状況）

（単位：円/俵、トン）

年産・産地銘柄		平成24年度											
		第1回 5月10日		第2回 7月19日		第3回 8月23日		第4回 9月13日		第5回 10月18日		第6回 12月6日	
		成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
23年産	宮城ひとめぼれ	－	－	18,793	33	18,206	26	－	－	－	－	－	－
23年産	秋田あきたこまち	18,949	91	18,810	43	18,200	24	－	－	－	－	－	－
23年産	山形はえぬき	18,640	48	－	－	17,842	61	－	－	－	－	－	－
23年産	福島会津コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	15,500	48	－	－	－	－
23年産	茨城コシヒカリ	18,189	78	16,930	79	－	－	－	－	－	－	－	－
23年産	栃木コシヒカリ	－	－	17,400	44	－	－	－	－	－	－	－	－
23年産	千葉コシヒカリ	18,225	67	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
23年産	新潟一般コシヒカリ	19,083	133	17,781	47	－	－	－	－	－	－	－	－
24年産	青森まっしぐら	－	－	－	－	－	－	－	－	15,271	23	15,600	48
24年産	宮城ひとめぼれ	－	－	－	－	－	－	－	－	15,854	157	－	－
24年産	秋田あきたこまち	－	－	－	－	－	－	16,334	122	15,964	52	16,160	30
24年産	福島あきたこまち	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	15,525	96
24年産	茨城コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	15,510	60	15,667	52	15,575	41
24年産	茨城あきたこまち	－	－	－	－	15,900	36	－	－	－	－	－	－
24年産	千葉ふさおとめ	－	－	－	－	15,969	48	－	－	－	－	－	－
24年産	新潟一般コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	－	－	17,100	12	－	－
24年産	富山コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	16,754	53	－	－	16,970	48
成約米穀の平均価格（加重平均）		17,829	1,278	17,264	505	16,611	463	16,307	473	15,667	676	16,076	713

出典：日本コメ市場株式会社のHP
注１：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
2：価格は、1等、包装代（紙袋）含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3：「－」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。

（５）（株）加工用米取引センターの取引結果

（単位：円/60kg）

取引日	年産、産地、銘柄	等級	成約数量（トン）	成約価格
平成24年9月3日	24年産千葉ふさおとめ（主食用）	1等	39.6	15,800
9月3日	24年産千葉ふさおとめ（主食用）	1等	39.6	15,700
9月6日	24年産三重コシヒカリ（主食用）	1等	13.2	16,500
9月14日	24年産富山コシヒカリ（主食用）	1等	10.8	17,050
9月24日	24年産福井ハナエチゼン（主食用）	1等	12.6	16,250
9月25日	24年産秋田あきたこまち（主食用）	1等	10.8	16,450
9月25日	24年産新潟コシヒカリ（岩船）（主食用）	1等	12.24	18,200
9月25日	24年産新潟コシヒカリ（佐渡）（主食用）	1等	12.24	18,200
9月26日	24年産北海道きらら397（主食用）（フレコン）	1等	21.42	15,350
9月26日	24年産北海道きらら397（主食用）	1等	10.2	15,670
9月28日	24年産山形はえぬき（主食用）	1等	12.96	15,600
9月28日	24年産新潟コシヒカリ（佐渡）（主食用）	1等	10.8	18,450
9月28日	24年産新潟コシヒカリ（魚沼）（主食用）	1等	10.8	23,150
9月28日	24年産新潟コシヒカリ（主食用）	1等	12	17,550
10月1日	24年産宮城ひとめぼれ（特栽米）（主食用）	1等	12.96	16,050
10月1日	24年産新潟コシヒカリ（佐渡）（主食用）	1等	12.24	18,350
10月9日	24年産山形はえぬき（主食用）	1等	12.96	15,600
10月9日	24年産新潟コシヒカリ（佐渡）（主食用）	1等	12.24	18,350
10月11日	24年産北海道きらら397（主食用）	1等	10.2	15,490
10月12日	24年産青森まっしぐら（主食用）	1等	32.4	15,520
10月16日	24年産北海道きらら397（主食用）	1等	102	15,490
10月23日	24年産新潟コシヒカリ（主食用）	1等	5.4	17,450
11月2日	24年産山形はえぬき（主食用）	1等	12.96	15,600
11月9日	24年産佐賀ヒヨクモチ（主食用）	2等	13.2	14,050
11月12日	24年産熊本ヒヨクモチ（主食用）	2等	12	12,750
11月15日	24年産熊本ヒヨクモチ（主食用）	2等	12	12,650
11月20日	24年産富山コシヒカリ（主食用）	1等	85.92	16,700
11月21日	24年産新潟コシヒカリ（主食用）	1等	12	17,600
11月21日	24年産新潟コシヒカリ（魚沼）（主食用）	1等	10.8	23,150
11月22日	24年産千葉ふさこがね（主食用）	1等	72	15,400
11月22日	24年産山形はえぬき（主食用）	1等	25.92	15,600
11月29日	24年産香川コシヒカリ（主食用）	2等	12.96	16,450
12月10日	24年産熊本ヒヨクモチ（主食用）	2等	10.8	12,950
12月13日	24年産岩手あきたこまち（主食用）	1等	24	16,000
12月17日	24年産新潟コシヒカリ（佐渡）（主食用）	1等	5.4	18,550

資料：㈱加工用米取引センターHP

注1：すべて玄米60kg当たりの価格（包装代込み、税抜き）。

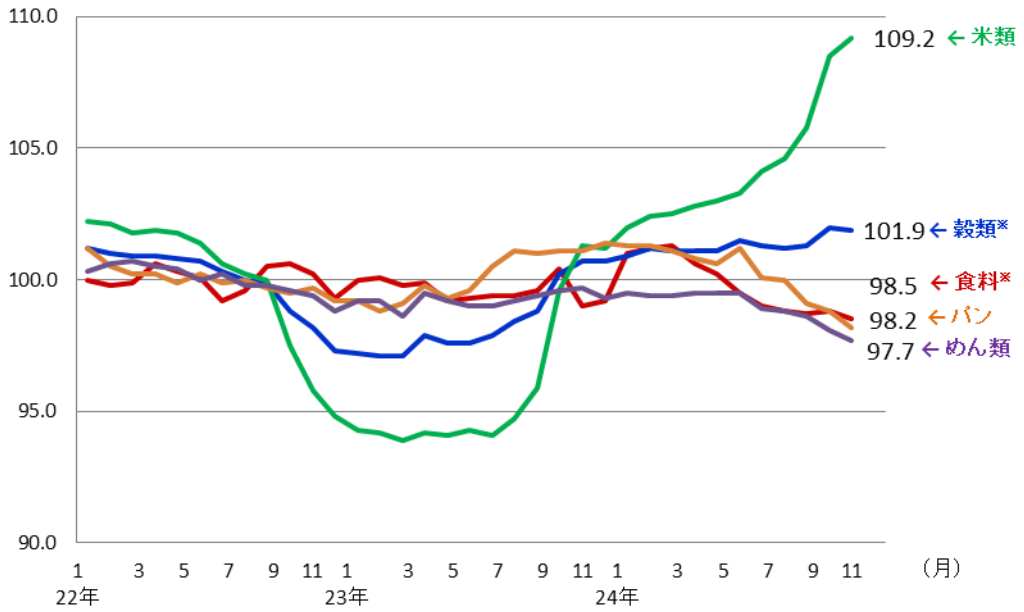
注2：商品形態は、玄米30kg紙袋である。ただし、売側・買側の合意があった場合には、フレコンも可とされている。

注3：成約価格は、着地持込価格。

Ⅲ　小売・消費段階の動向

（１）　消費者物価指数の推移

（図）消費者物価指数の推移



注1：図中の実線は、平成22年の平均価格を100とした数値となる。
　2：図中の数値は、平成24年11月の消費者物価指数となる。
　3：図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

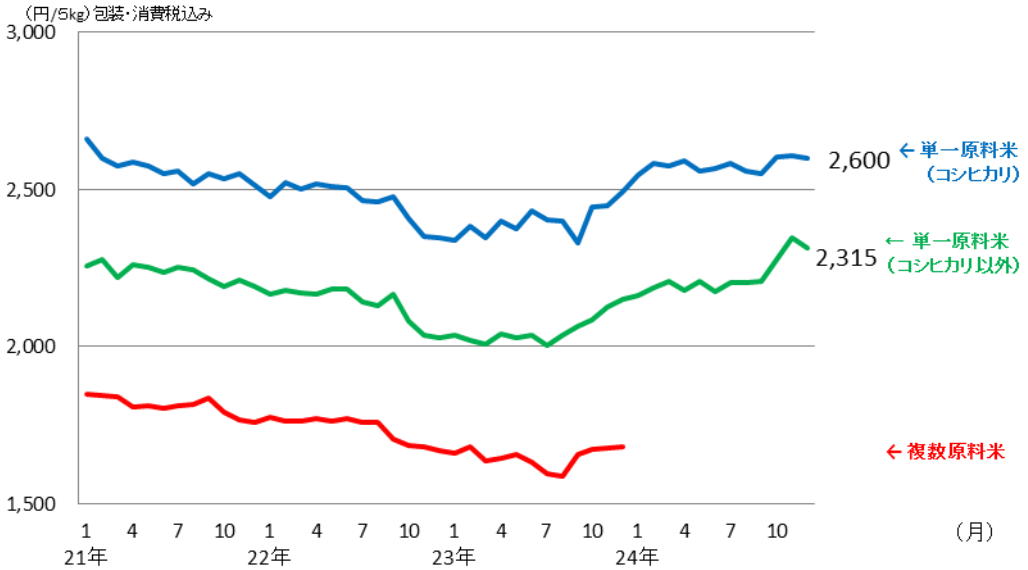
（表）消費者物価指数の推移（対前年同月比）

	食料	対前年同月比	穀類	対前年同月比	米類	対前年同月比	うるち米	対前年同月比	パン	対前年同月比	めん類	対前年同月比
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年	100.0	▲0.3%	100.0	▲3.2%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.8%	100.0	▲1.9%
平成23年	99.6	▲0.4%	98.4	▲1.6%	96.0	▲4.0%	95.9	▲4.1%	100.2	0.2%	99.2	▲0.8%
平成23年1月	100.0	0.0%	97.2	▲4.0%	94.3	▲7.7%	94.3	▲7.8%	99.2	▲2.0%	99.2	▲1.1%
2月	100.1	0.3%	97.1	▲3.9%	94.2	▲7.7%	94.0	▲7.9%	98.8	▲1.7%	99.2	▲1.4%
3月	99.8	▲0.1%	97.1	▲3.8%	93.9	▲7.8%	93.8	▲7.9%	99.1	▲1.1%	98.6	▲2.1%
4月	99.9	▲0.7%	97.9	▲3.0%	94.2	▲7.6%	94.1	▲7.7%	99.8	▲0.4%	99.5	▲1.0%
5月	99.2	▲1.1%	97.6	▲3.2%	94.1	▲7.6%	93.9	▲7.8%	99.3	▲0.6%	99.2	▲1.2%
6月	99.3	▲0.8%	97.6	▲3.1%	94.3	▲7.0%	94.1	▲7.3%	99.6	▲0.6%	99.0	▲1.0%
7月	99.4	0.2%	97.9	▲2.4%	94.1	▲6.5%	94.0	▲6.6%	100.5	0.6%	99.0	▲1.2%
8月	99.4	▲0.2%	98.4	▲1.6%	94.7	▲5.5%	94.6	▲5.6%	101.1	1.1%	99.2	▲0.6%
9月	99.6	▲0.9%	98.8	▲1.1%	95.9	▲4.1%	95.8	▲4.2%	101.0	1.3%	99.4	▲0.4%
10月	100.4	▲0.2%	100.2	1.4%	99.6	2.2%	99.7	2.4%	101.1	1.6%	99.6	0.0%
11月	99.0	▲1.2%	100.7	2.5%	101.3	5.7%	101.5	6.2%	101.1	1.4%	99.7	0.3%
12月	99.2	▲0.1%	100.7	3.5%	101.2	6.8%	101.5	7.2%	101.4	2.2%	99.3	0.5%
平成24年1月	101.0	1.0%	100.9	3.8%	102.0	8.2%	102.3	8.5%	101.3	2.1%	99.5	0.3%
2月	101.2	1.1%	101.2	4.2%	102.4	8.7%	102.7	9.3%	101.3	2.5%	99.4	0.2%
3月	101.3	1.5%	101.1	4.1%	102.5	9.2%	102.8	9.6%	101.1	2.0%	99.4	0.8%
4月	100.6	0.7%	101.1	3.3%	102.8	9.1%	103.0	9.5%	100.8	1.0%	99.5	0.0%
5月	100.2	1.0%	101.1	3.6%	103.0	9.5%	103.2	9.9%	100.6	1.3%	99.5	0.3%
6月	99.5	0.2%	101.5	4.0%	103.3	9.5%	103.6	10.1%	101.2	1.6%	99.5	0.5%
7月	99.0	▲0.4%	101.3	3.5%	104.1	10.6%	104.4	11.1%	100.1	▲0.4%	98.9	▲0.1%
8月	98.8	▲0.6%	101.2	2.8%	104.6	10.5%	104.9	10.9%	100.0	▲1.1%	98.8	▲0.4%
9月	98.7	▲0.9%	101.3	2.5%	105.8	10.3%	106.3	11.0%	99.1	▲1.9%	98.6	▲0.8%
10月	98.8	▲1.6%	102.0	1.8%	108.5	8.9%	109.0	9.3%	98.8	▲2.3%	98.1	▲1.5%
11月	98.5	▲0.5%	101.9	1.2%	109.2	7.8%	109.7	8.1%	98.2	▲2.9%	97.7	▲2.0%

資料：総務省「消費者物価指数」（平成22年基準）
注1：表中の数値は、平成22年の平均価格を100として指数化したものである。
　2：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
　3：穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
　4：平成17年から平成23年のデータは年平均、平成23年1月以降は月次データを用いている。

（２）　小売物価統計の推移

（図）小売物価統計の推移



（表）小売物価統計の推移

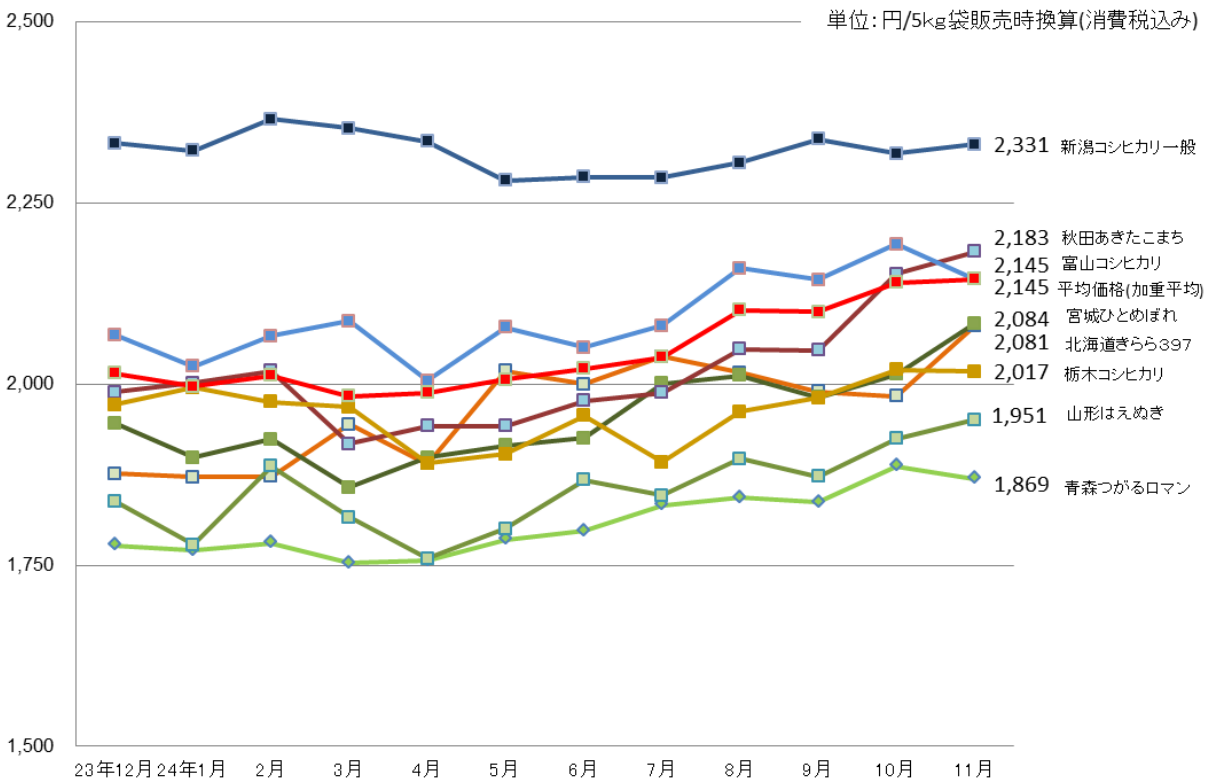
（単位：円/5kg　包装・消費税込み）

	うるち米		
	単一原料米（コシヒカリ）	単一原料米（コシヒカリ以外）	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年	2,462	2,136	1,739
平成23年	2,399	2,053	1,649
平成23年1月	2,338	2,038	1,662
2月	2,382	2,020	1,683
3月	2,347	2,006	1,636
4月	2,399	2,039	1,646
5月	2,375	2,029	1,658
6月	2,432	2,035	1,633
7月	2,405	2,003	1,594
8月	2,399	2,038	1,587
9月	2,330	2,067	1,658
10月	2,445	2,086	1,673
11月	2,448	2,128	1,677
12月	2,493	2,150	1,680
平成24年1月	2,545	2,165	－
2月	2,585	2,188	－
3月	2,576	2,209	－
4月	2,592	2,178	－
5月	2,559	2,206	－
6月	2,568	2,177	－
7月	2,583	2,205	－
8月	2,557	2,202	－
9月	2,550	2,210	－
10月	2,604	2,276	－
11月	2,609	2,345	－
12月	2,600	2,315	－

資料：総務省「小売物価統計」
注１：東京都区部の数値である。
　２：特売を除いた価格である。
　３：精米ベースである。
　４：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

（３）　小売価格の推移（ＰＯＳデータ）

（図）小売価格の推移



（表）小売価格の推移

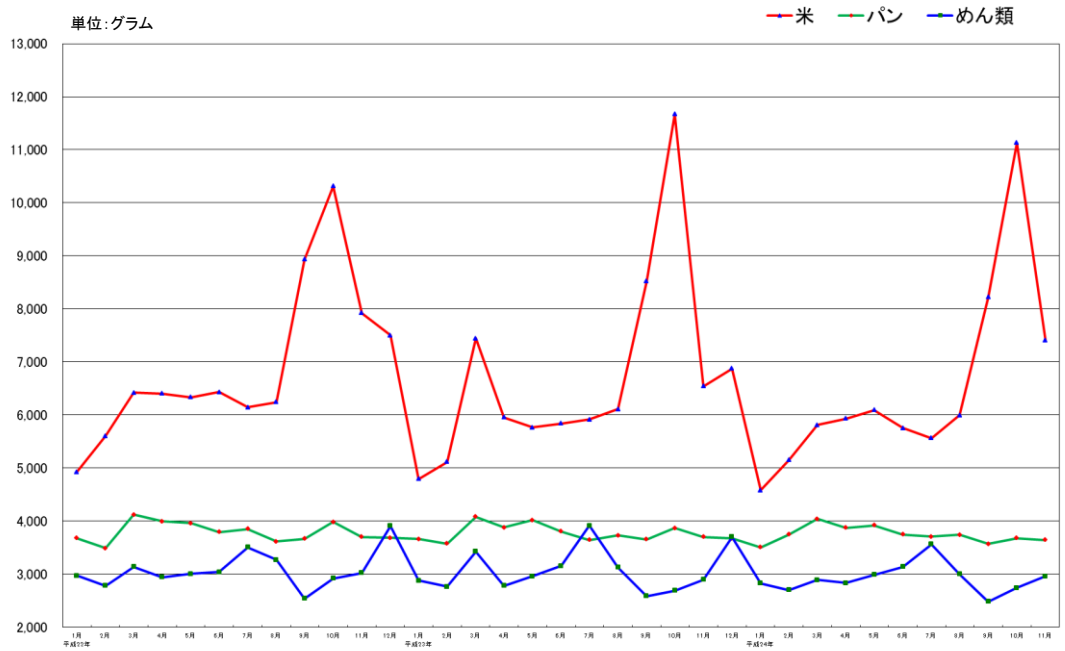
単位：円/5kg袋販売時換算（消費税込み）

	品種銘柄								
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ	全POS取引 平均価格
23年12月	1,876	1,777	1,946	1,988	1,838	1,971	2,332	2,068	2,015
24年1月	1,871	1,770	1,899	2,002	1,778	1,995	2,323	2,025	1,996
2月	1,872	1,781	1,924	2,018	1,887	1,975	2,366	2,067	2,012
3月	1,944	1,753	1,857	1,918	1,816	1,968	2,353	2,087	1,983
4月	1,890	1,756	1,899	1,942	1,759	1,890	2,335	2,005	1,988
5月	2,018	1,785	1,915	1,942	1,801	1,904	2,281	2,079	2,006
6月	2,000	1,797	1,926	1,977	1,867	1,956	2,286	2,050	2,021
7月	2,038	1,833	2,001	1,988	1,846	1,892	2,285	2,081	2,037
8月	2,016	1,843	2,012	2,048	1,897	1,962	2,306	2,160	2,102
9月	1,990	1,837	1,982	2,047	1,872	1,981	2,338	2,144	2,100
10月	1,983	1,887	2,013	2,152	1,925	2,020	2,318	2,193	2,140
11月	2,081	1,869	2,084	2,183	1,951	2,017	2,331	2,145	2,145

資料：（株）KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注1：（株）KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約850店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。
　2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。
　3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。
　4：平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

（4） 購入数量の推移（家計調査）

（図）購入数量の推移



（表）購入数量の推移

（単位：グラム）

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,140	97.7%	45,493	99.8%	36,999	101.0%
平成23年	80,510	96.8%	45,254	99.5%	36,835	99.6%
平成22年1月	4,920	98.0%	3,673	104.3%	2,966	103.9%
2月	5,600	100.2%	3,484	99.7%	2,778	103.3%
3月	6,420	101.3%	4,119	102.2%	3,135	100.4%
4月	6,400	96.7%	3,989	101.1%	2,937	103.0%
5月	6,330	101.8%	3,954	96.6%	3,000	94.2%
6月	6,430	106.1%	3,790	99.1%	3,038	98.8%
7月	6,140	95.8%	3,850	100.1%	3,503	101.3%
8月	6,240	94.4%	3,612	96.2%	3,268	104.6%
9月	8,930	91.6%	3,663	94.4%	2,534	100.2%
10月	10,310	91.7%	3,979	101.0%	2,914	101.2%
11月	7,920	98.5%	3,700	99.0%	3,020	100.9%
12月	7,500	104.9%	3,680	103.1%	3,906	104.4%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,440	115.9%	4,076	99.0%	3,424	109.2%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%
5月	5,760	91.0%	4,015	101.5%	2,958	98.6%
6月	5,840	90.8%	3,804	100.4%	3,149	103.7%
7月	5,910	96.3%	3,640	94.5%	3,911	111.6%
8月	6,110	97.9%	3,724	103.1%	3,122	95.5%
9月	8,520	95.4%	3,653	99.7%	2,583	101.9%
10月	11,670	113.2%	3,866	97.2%	2,686	92.2%
11月	6,540	82.6%	3,700	100.0%	2,893	95.8%
12月	6,870	91.6%	3,669	99.7%	3,695	94.6%
平成24年1月	4,580	95.6%	3,505	95.9%	2,821	98.1%
2月	5,150	100.8%	3,744	104.8%	2,699	97.7%
3月	5,810	78.1%	4,035	99.0%	2,889	84.4%
4月	5,930	99.7%	3,870	99.8%	2,831	102.0%
5月	6,090	105.7%	3,917	97.6%	2,986	100.9%
6月	5,750	98.5%	3,741	98.3%	3,132	99.5%
7月	5,560	94.1%	3,704	101.8%	3,557	90.9%
8月	5,990	98.0%	3,736	100.3%	2,996	96.0%
9月	8,220	96.5%	3,566	97.6%	2,477	95.9%
10月	11,130	95.4%	3,676	95.1%	2,738	101.9%
11月	7,400	113.1%	3,640	98.4%	2,955	102.1%

資料：総務省「家計調査」
注1：二人以上の世帯の数値である。
2：平成20年及び平成21年については、年間の購入数量を示す。
3：精米ベースである。

（５） 米の消費動向（米穀機構による調査：平成23年４月分調査から実施）

○ 本調査は、調査実施機関（(株)マクロミル）のモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

① １人１ヵ月当たり精米消費量の推移

（上段:対前月比(24年4月からは対前年同月比)、下段:実数(精米g/人)）

	平成23年4月		平成23年5月		平成23年6月		平成23年7月		平成23年8月		平成23年9月	
	（暫定値）	内訳	（暫定値）	内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計	－		▲6.0%		▲1.2%		▲7.2%		+0.2%		+3.1%	
	(5,434)	(100.0%)	(5,106)	(100.0%)	5,045	100.0%	4,681	100.0%	4,692	100.0%	4,839	100.0%
家庭内	－		▲4.5%		0.9%		▲10.5%		+0.3%		+5.9%	
	(3,536)	(65.1%)	(3,377)	(66.1%)	3,406	67.5%	3,047	65.1%	3,055	65.1%	3,236	66.9%
中・外食	－		▲8.9%		▲5.2%		▲0.2%		+0.1%		▲2.1%	
	(1,898)	(34.9%)	(1,729)	(33.9%)	1,639	32.5%	1,635	34.9%	1,637	34.9%	1,603	33.1%
中食	－		▲9.6%		▲8.5%		▲4.2%		+0.3%		▲0.8%	
	(1,152)	(21.2%)	(1,041)	(20.4%)	953	18.9%	913	19.5%	916	19.5%	909	18.8%
外食	－		▲7.8%		▲0.3%		+5.2%		▲0.3%		▲3.8%	
	(746)	(13.7%)	(688)	(13.5%)	686	13.6%	722	15.4%	720	15.4%	693	14.3%

	平成23年10月		平成23年11月		平成23年12月		平成24年1月		平成24年2月		平成24年3月	
		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計	▲1.2%		+1.5%		▲5.4%		+1.4%		▲0.3%		+2.1%	
	4,783	100.0%	4,856	100.0%	4,596	100.0%	4,661	100.0%	4,649	100.0%	4,748	100.0%
家庭内	▲0.2%		+0.7%		▲8.3%		+3.8%		+2.3%		▲0.2%	
	3,229	67.5%	3,251	66.9%	2,982	64.9%	3,094	66.4%	3,166	68.1%	3,160	66.6%
中・外食	▲3.1%		+3.3%		+0.6%		▲2.9%		▲5.4%		+7.1%	
	1,554	32.5%	1,605	33.1%	1,614	35.1%	1,567	33.6%	1,483	31.9%	1,588	33.4%
中食	▲1.9%		+1.2%		▲1.4%		▲4.6%		▲1.8%		+6.7%	
	892	18.6%	903	18.6%	890	19.4%	849	18.2%	834	17.9%	890	18.7%
外食	▲4.5%		+6.0%		+3.1%		▲0.8%		▲9.6%		+7.6%	
	662	13.8%	702	14.5%	724	15.8%	718	15.4%	649	14.0%	698	14.7%

	平成24年4月		平成24年5月		平成24年6月		平成24年7月		平成24年8月		平成24年9月	
		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計	▲0.7%		▲0.04%		+1.8%		+2.3%		▲1.3%		▲0.4%	
	5,395	100.0%	5,104	100.0%	5,135	100.0%	4,788	100.0%	4,629	100.0%	4,820	100.0%
家庭内	+3.0%		+0.4%		+1.2%		+4.0%		+2.3%		+1.5%	
	3,642	67.5%	3,391	66.4%	3,446	67.1%	3,170	66.2%	3,126	67.5%	3,285	68.2%
中・外食	▲7.6%		▲0.9%		+3.1%		▲1.0%		▲8.1%		▲4.2%	
	1,754	32.5%	1,713	33.6%	1,690	32.9%	1,618	33.8%	1,504	32.5%	1,535	31.8%
中食	▲12.3%		▲5.1%		+5.4%		+3.2%		▲7.1%		▲3.0%	
	1,010	18.7%	988	19.4%	1,004	19.6%	942	19.7%	851	18.4%	882	18.3%
外食	▲0.3%		+5.4%		+0.0%		▲6.4%		▲9.4%		▲5.8%	
	744	13.8%	725	14.2%	686	13.4%	676	14.1%	652	14.1%	653	13.5%

	平成24年10月		平成24年11月	
		内訳		内訳
合計	+3.1%		+1.2%	
	4,931	100.0%	4,916	100.0%
家庭内	+5.9%		+4.8%	
	3,420	69.4%	3,406	69.3%
中・外食	▲2.8%		▲5.9%	
	1,511	30.6%	1,510	30.7%
中食	▲2.1%		▲5.1%	
	873	17.7%	857	17.4%
外食	▲3.6%		▲7.1%	
	638	12.9%	652	13.3%

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注１：平成23年４月分及び５月分の調査は、東日本大震災のため東北６県及び茨城県を調査対象外としているため、暫定値として公表。
２：平成23年６月分の調査から東北６県及び茨城県が調査対象に含まれており、24年11月分の有効調査世帯数は2,624。
３：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握。家庭外消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯類の概量から推計。
４：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が国勢調査「世帯人員構成比（23年度は17年国勢調査、24年度は22年国勢調査）」に沿うよう調整した上で推計。
５：四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

② 精米購入時の動向

（ア） 入手経路（複数回答）

（%）

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協（店舗・共同購入含む）	農協（店舗・共同購入含む）	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成23年4月（暫定値）	0.5	51.6	2.4	5.1	0.0	8.1	1.7	4.4	1.8	5.2	5.4	19.2	1.6
5月（暫定値）	1.3	44.6	3.9	4.3	0.3	8.4	1.2	4.6	1.4	6.4	5.5	24.4	2.9
6月	1.7	45.5	3.7	5.4	0.3	8.4	2.0	4.0	0.9	5.6	6.6	20.7	2.3
7月	1.1	43.6	3.5	4.2	0.4	10.4	1.3	3.8	1.2	7.9	5.6	22.4	2.2
8月	0.8	46.1	4.0	4.8	0.7	10.0	1.1	3.3	1.4	6.0	6.3	22.1	2.1
9月	0.2	48.3	3.1	3.7	0.2	8.7	1.2	3.5	1.4	7.2	6.2	22.7	2.1
10月	0.5	44.5	4.5	2.6	0.4	8.8	1.1	3.5	2.0	7.5	4.6	29.6	2.3
11月	0.0	43.6	2.9	4.4	0.6	7.7	0.9	4.2	1.3	7.3	6.9	28.4	2.6
12月	0.6	45.2	3.3	3.5	0.8	8.5	1.1	3.6	1.0	7.1	6.7	26.4	2.3
平成24年1月	0.4	44.3	4.8	4.4	0.8	8.1	1.5	3.8	0.4	7.1	7.8	23.9	1.9
2月	0.2	47.0	3.9	3.7	0.3	8.6	1.7	3.8	1.5	7.3	8.4	20.5	2.6
3月	0.6	46.7	4.0	4.4	0.2	8.0	1.4	2.9	1.2	7.2	7.1	21.3	1.7
4月	0.7	46.8	5.0	4.6	0.2	7.2	1.5	4.3	1.5	6.8	7.2	18.7	1.6
5月	0.5	45.9	5.1	3.6	0.2	6.4	1.9	4.3	1.7	7.1	9.4	19.4	1.5
6月	1.0	44.9	5.5	3.8	0.1	7.1	2.2	4.4	2.3	5.5	7.8	21.5	1.9
7月	1.4	47.5	5.0	3.6	0.1	7.8	2.2	4.1	1.7	6.5	7.0	20.5	1.8
8月	1.1	46.8	4.4	3.4	0.4	7.5	1.9	4.3	1.2	5.2	7.4	22.6	1.6
9月	0.8	46.3	4.9	3.0	0.2	8.2	1.7	3.3	1.4	7.7	5.7	25.7	1.7
10月	0.8	41.3	3.4	3.1	0.2	8.2	1.8	3.9	3.0	8.2	7.3	28.8	2.7
11月	0.8	42.7	3.0	3.1	0.3	7.3	1.9	4.4	2.1	7.1	8.1	26.8	2.6

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

（イ） 入手経路別の購入数量

（%、kg）

	24年4月(n=1270)			5月(n=1607)			6月(n=1949)			7月(n=1867)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	58	0.5	6.8	57	0.3	7.8	102	0.5	5.3	140	0.8	5.5
スーパーマーケット	4,868	38.4	8.2	6,130	36.5	8.3	7,301	35.8	8.3	6,955	37.7	7.8
ドラッグストア	557	4.4	8.8	738	4.4	9.0	1,022	5.0	9.5	832	4.5	8.9
ディスカウントストア	600	4.7	10.3	522	3.1	9.1	799	3.9	10.7	542	2.9	8.1
コンビニエンスストア	36	0.3	12.6	18	0.1	6.1	18	0.1	6.1	13	0.1	4.8
生協(店舗・共同購入含む)	686	5.4	7.5	851	5.1	8.2	1,216	6.0	8.8	1,260	6.8	8.7
農協(店舗・共同購入含む)	187	1.5	9.7	249	1.5	8.2	461	2.3	10.6	372	2.0	8.9
米穀専門店	520	4.1	9.5	676	4.0	9.9	841	4.1	9.8	703	3.8	9.1
産地直売所	206	1.6	10.8	308	1.8	11.5	541	2.7	12.3	273	1.5	8.5
生産者から直接購入	1,705	13.4	19.7	1,966	11.7	17.2	1,900	9.3	17.7	2,223	12.0	18.2
インターネット□ョップ	967	7.6	10.6	1,679	10.0	11.1	1,757	8.6	11.5	1,425	7.7	10.9
家族・知人などから無償で入手	2,291	18.1	9.7	3,583	21.4	11.5	4,427	21.7	10.6	3,714	20.1	9.7

	8月(n=1778)			9月(n=2017)			10月(n=1916)			11月(n=1719)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	93	0.5	4.9	112	0.5	7.0	94	0.4	6.0	62	0.3	4.7
スーパーマーケット	6,805	39.4	8.2	7,412	36.1	7.9	6,453	29.8	8.2	6,085	33.7	8.3
ドラッグストア	680	3.9	8.8	868	4.2	8.8	581	2.7	8.9	449	2.5	8.7
ディスカウントストア	530	3.1	8.7	512	2.5	8.5	539	2.5	9.2	532	2.9	10.0
コンビニエンスストア	32	0.2	5.1	24	0.1	5.1	28	0.1	6.2	34	0.2	7.2
生協(店舗・共同購入含む)	1,040	6.0	7.8	1,314	6.4	7.9	1,251	5.8	7.9	1,096	6.1	8.7
農協(店舗・共同購入含む)	284	1.6	8.4	260	1.3	7.7	312	1.4	9.0	264	1.5	8.3
米穀専門店	702	4.1	9.1	685	3.3	10.4	717	3.3	9.6	757	4.2	9.9
産地直売所	223	1.3	10.9	289	1.4	10.1	592	2.7	10.2	438	2.4	12.0
生産者から直接購入	1,595	9.2	17.4	2,595	12.7	16.8	3,136	14.5	19.9	2,126	11.8	17.5
インターネット□ョップ	1,308	7.6	10.0	1,298	6.3	11.2	1,447	6.7	10.3	1,585	8.8	11.4
家族・知人などから無償で入手	3,986	23.1	9.9	5,140	25.1	9.9	6,469	29.9	11.7	4,638	25.7	10.1

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注１：上記データの留意点については、①の注釈を参照。
　２：世帯平均購入数量は、精米を購入した世帯の平均購入数量である。

（ウ） 重視する点（複数回答）

（%）

	産地	品種	年産	価格	食味（おいしさ）	適量感	安全性	無洗米	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年4月（暫定値）	42.6	53.6	31.9	76.0	47.1	8.4	25.4	－	28.2	6.4	7.2	4.2	7.8
5月（暫定値）	45.9	52.4	32.7	77.0	48.3	7.2	27.9	－	27.3	4.7	6.9	3.3	5.3
6月	44.0	53.7	34.6	78.3	50.6	7.6	24.7	－	28.5	4.7	7.9	4.0	4.8
7月	48.0	52.2	33.3	79.6	49.7	8.5	28.4	－	28.1	4.3	6.6	4.3	3.4
8月	50.9	51.2	34.8	78.4	47.8	10.3	31.4	－	25.8	4.4	6.7	4.1	4.8
9月	47.9	50.2	35.9	78.0	48.0	8.0	32.0	－	25.1	3.5	7.5	4.7	4.7
10月	53.5	52.2	37.1	77.5	49.5	10.2	32.5	－	25.6	4.5	6.8	3.8	4.5
11月	53.4	50.7	40.9	77.7	49.9	9.2	35.6	－	26.6	4.3	8.9	4.1	5.2
12月	52.4	49.4	39.5	79.0	49.2	8.4	34.4	－	27.8	3.8	7.9	6.4	4.4
平成24年1月	53.7	51.2	39.5	77.1	47.1	11.5	34.3	－	27.4	5.3	9.2	5.0	4.9
2月	51.0	49.2	37.9	79.0	48.1	8.6	33.3	－	28.8	3.8	8.7	6.0	4.9
3月	54.8	51.3	41.1	76.4	49.9	10.5	33.0	－	29.3	4.2	7.5	5.2	5.4
4月	51.5	48.2	30.2	74.3	44.6	6.7	31.7	11.2	21.0	4.2	6.4	4.2	3.9
5月	52.0	51.1	34.6	75.5	46.5	8.5	29.7	11.5	22.7	4.6	6.6	3.4	2.8
6月	52.2	50.1	33.1	75.4	47.5	9.0	32.3	11.5	23.6	5.0	6.6	4.1	3.7
7月	53.0	50.5	35.4	74.2	48.4	9.0	32.8	11.4	22.9	5.0	7.3	5.0	2.4
8月	54.3	50.8	37.4	74.8	48.8	9.2	32.0	12.1	23.7	5.4	7.8	4.0	1.9
9月	56.0	50.6	36.6	74.6	48.3	8.1	31.5	10.9	22.9	5.3	8.8	4.4	2.4
10月	52.8	52.5	38.0	74.8	50.6	8.5	33.5	10.6	24.7	5.5	8.6	5.2	2.0
11月	54.6	51.3	39.5	73.1	52.2	9.3	33.1	10.3	24.2	6.1	8.8	5.4	2.2

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

（エ） 家庭内の月末在庫数量

（kg/世帯）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23年度	月末在庫数量	6.8	7.0	7.0	6.7	6.9	6.9	8.3	7.9	8.3	7.6	7.5	7.2
	平均世帯人員	2.51	2.51	2.54	2.53	2.54	2.53	2.53	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54
24年度	月末在庫数量	6.1	6.1	6.3	6.2	6.1	6.5	7.3	7.2				
	平均世帯人員	2.42	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41				

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注１：上記データの留意点については、①の注釈を参照。
２：平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

Ⅳ 生産段階の動向

（1） 国産米（水稲）の作況・収穫量

年産	作付面積（子実用）	10a当たり収量	収穫量（子実用）	（参考） 主食用作付面積	（参考） 収穫量（主食用）	（参考） 10a当たり平年収量	（参考） 生産数量目標	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	kg	t	
18	1 684 000	507	8 546 000	…	…	529	8 330 983	96
19	1 669 000	522	8 705 000	…	…	529	8 284 755	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	8 149 720	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	8 150 020	98
22	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	8 129 990	98
23	1 574 000	533	8 397 000	1 526 000	8 133 000	530	7 949 990	101

出典：農林水産省統計部「統計情報」
注1：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2：主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。
3：「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

（2） 平成24年産水陸稲の収穫量

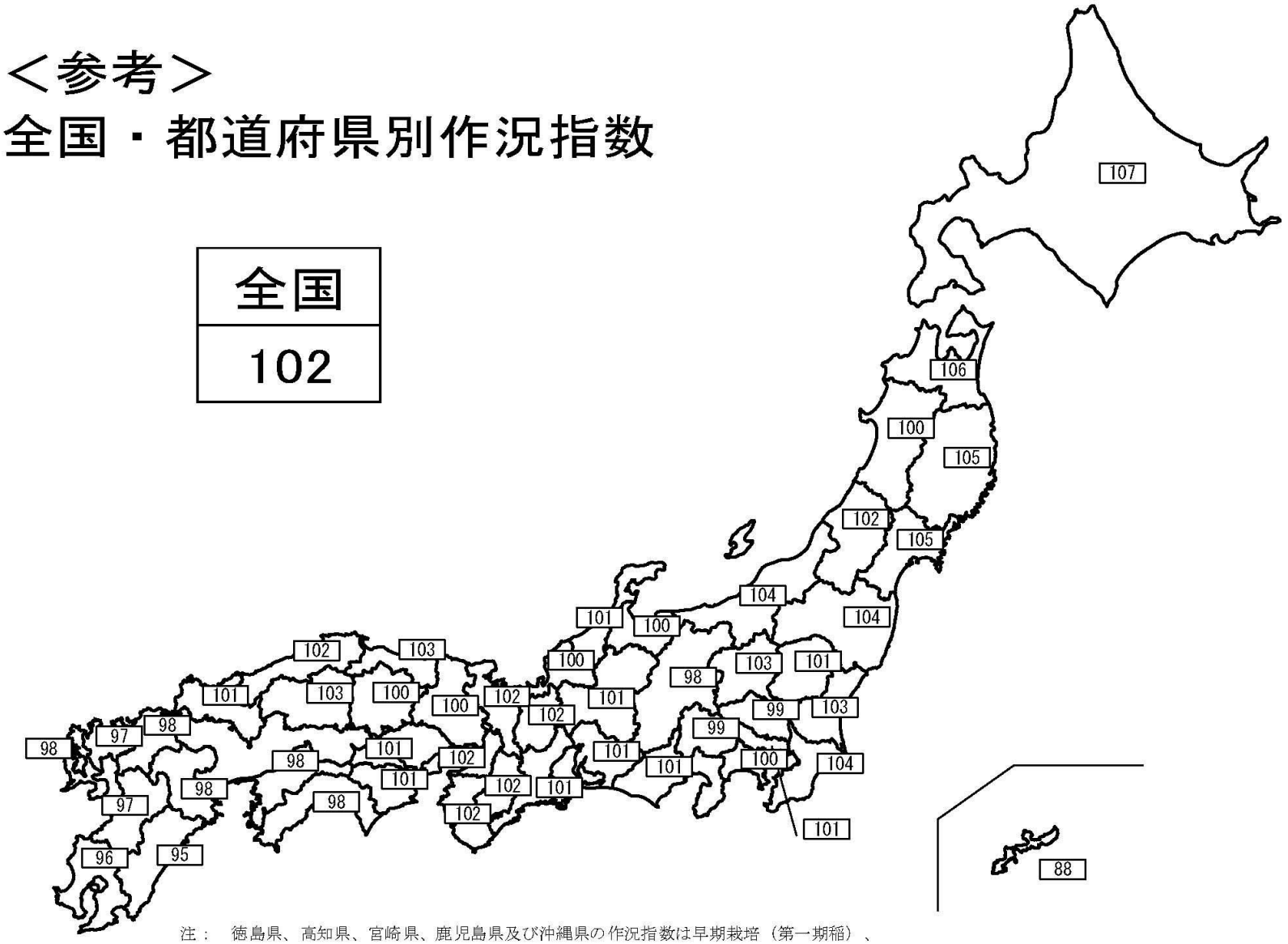
①平成24年産水陸稲の収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	水陸稲計 作付面積（子実用）	水陸稲計 収穫量（子実用）	水稲 作付面積（子実用）①	水稲 10a当たり収量 ②	水稲 収穫量（子実用）③＝①×②	水稲 参考 主食用作付面積 ④	水稲 参考 収穫量（主食用）⑤＝④×②	水稲 参考 10a当たり平年収量 ⑥	水稲 参考 作況指数 ⑦＝②／⑥
	ha	t	ha	kg	t	ha	t	kg	
全国	1,581,000	8,523,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	530	102
北海道	112,000	640,600	112,000	572	640,600	108,700	621,800	535	107
東北	396,700	2,288,000	396,700	577	2,288,000	374,500	2,159,000	559	103
北陸	209,400	1,141,000	209,400	545	1,141,000	194,100	1,057,000	534	102
関東・東山	297,600	1,607,000	295,500	542	1,603,000	288,000	1,563,000	535	101
東海	101,900	516,900	101,900	507	516,900	100,800	510,900	503	101
近畿	109,100	561,400	109,100	515	561,400	107,400	552,700	509	101
中国	114,700	601,400	114,700	524	601,400	113,000	592,100	517	101
四国	55,800	269,000	55,800	482	269,000	55,500	267,100	484	100
九州	183,300	895,700	183,300	489	895,700	181,200	884,500	503	97
沖縄	919	2,500	919	272	2,500	919	2,500	309	88

出典：農林水産省「農林水産統計」
注1：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2：主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
3：収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

＜参考＞
全国・都道府県別作況指数

全国
102



注：　徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

（３）加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の生産量

単位:トン

	うるち米	もち米	合計
平成16年産	117,837	4,404	122,241
平成17年産	123,996	4,738	128,734
平成18年産	140,596	7,996	148,592
平成19年産	152,145	10,659	162,804
平成20年産	138,895	10,154	149,048
平成21年産	134,389	6,779	141,168
平成22年産	190,883	21,945	212,829
平成23年産	122,741	32,233	154,973
平成24年産	149,662	32,497	182,158

資料: 農林水産省「加工用米生産量」
注1: 需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成24年10月15日現在の値。
2: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産	
	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955	183,431	34,525
ＷＣＳ用稲（稲発酵粗飼料用稲）	―	9,089	―	10,203	―	15,939	―	23,086	―	25,672
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415	2,793	450
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287	2,524	454
その他（わら専用稲、青刈り用稲等）	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501	857	553
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569	224,127	68,091

資料: 農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」
注1:WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため計画生産量はなし。
2:平成24年産は、需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成24年10月15日現在の値。
3:なお、ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

（４） 水稲うるち玄米の検査結果

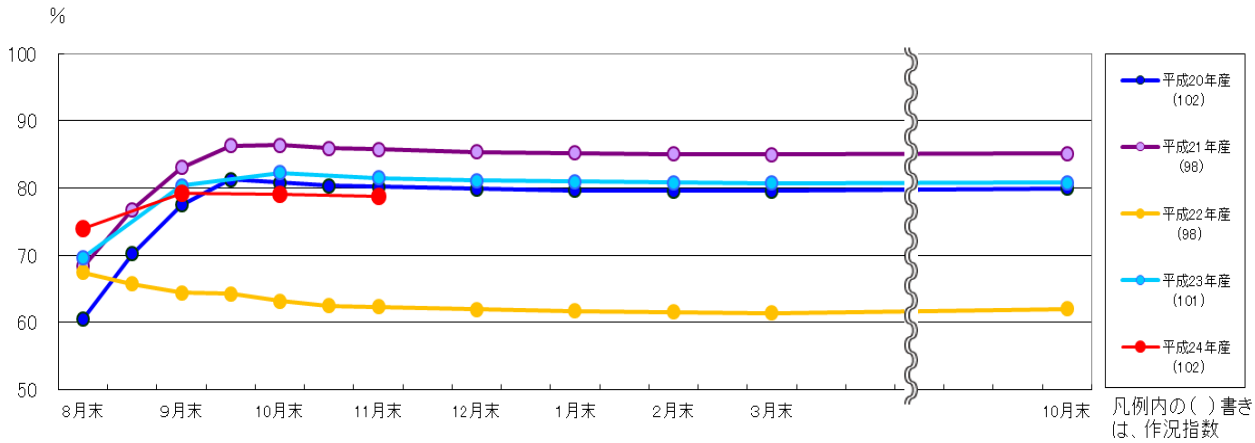
① 検査数量及び等級比率（年産別）

（単位：トン、％）

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24 ※	4,156,415	3,270,964	757,264	71,407	56,780	78.7	18.2	1.7	1.4

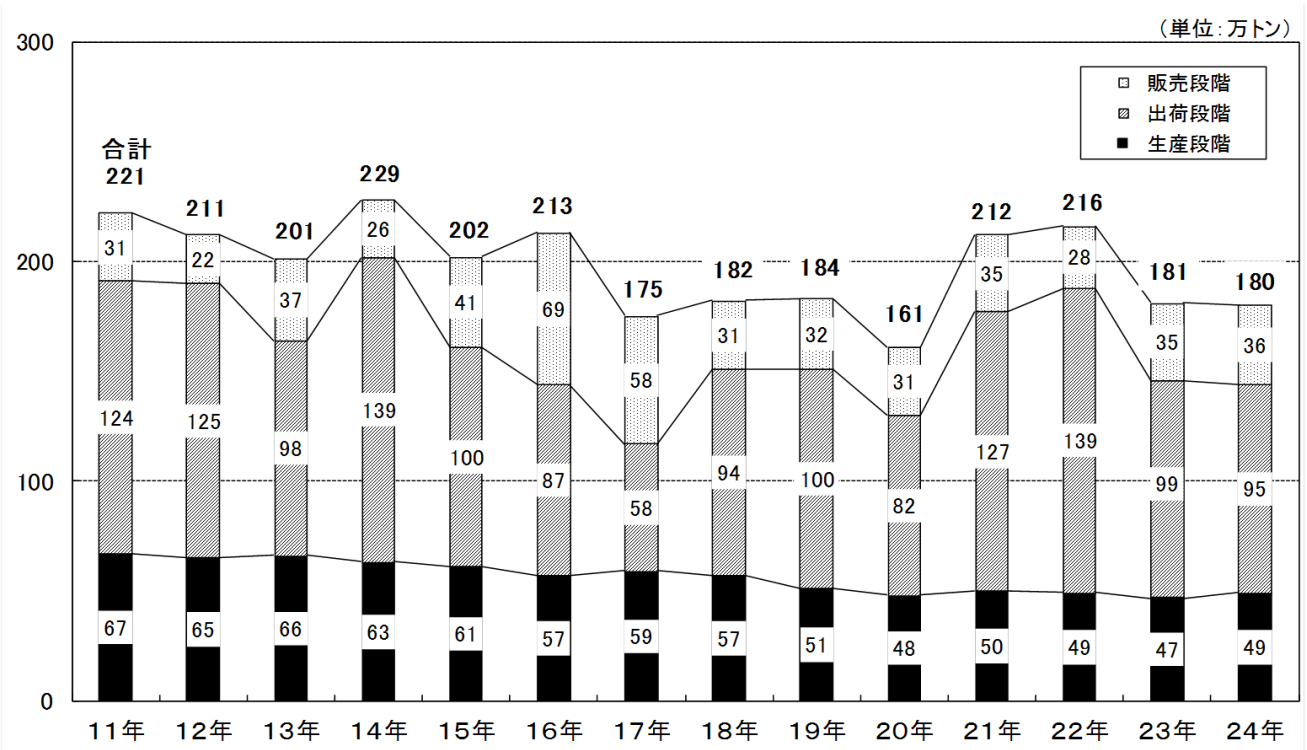
資料：農林水産省とりまとめ
注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。
2：※ 24年産については、平成24年11月30日現在（速報値）

② 水稲うるち玄米の1等比率の推移



資料：農林水産省とりまとめ
注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。
2：1等比率については、4月以降変動が軽微なため、平成23年産から、翌年4月末～翌年9月末の間、公表していない。

Ⅴ　民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ
注1：うるち玄米及びもち玄米の値である。
2：各年の民間在庫量において、
①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
②平成15年については、
・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。
・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
③平成14年以前については推計値であり、
・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量である。
・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。
なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。
3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

Ⅵ　備蓄米及びMA米の動向

（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

①　24年産国内産米穀の政府買入入札の結果（第8回：最終　平成24年6月19日実施）

1　入札者数等

入札参加資格者数	90
入札者数	5
落札者数	5

2　落札数量等

単位:トン

買入対象米穀の産地	提示数量	入札数量	落札数量
指定なし	117,021	411	411

（参考）　第1回から第8回の入札における落札状況

単位:トン

買入対象米穀の産地	買入予定数量	第1回（1月19日）	第2回（2月7日）	第3回（2月21日）	第4回（3月6日）	第5回（3月19日）	第6回（4月17日）	第7回（5月22日）	第8回（6月19日）	落札数量累計
提示数量	200,000	200,000	181,629	139,701	125,285	119,990	119,478	117,986	117,021	
指定なし	125,460	2,004	11,571	3,730	3,648	309	1,492	965	411	24,130
北海道	7,860		5,003	669	96					5,768
青森	2,400	1,002	192	180	1,014					2,388
岩手	5,680		4,846	258		45				5,149
宮城	5,700			3,952						3,952
秋田	13,230	8,843	420		252	80				9,595
山形	7,690	4,669	569	2,452						7,690
福島	1,320			52						52
茨城	90			90						90
栃木	2,500	1,050		798						1,848
千葉	100		99							99
新潟	10,120	233	9,200		165	16				9,614
富山	7,920		7,920							7,920
石川	1,120	420	120	100	120	50				810
福井	2,430		1,300							1,300
長野	100			93						93
三重	700			699						699
岡山	180	150								150
広島	1,020		448	155						603
山口	3,000		50	723		12				785
香川	590									0
愛媛	420			345						345
福岡	120			120						120
佐賀	190		190							190
熊本	60									0
道県別枠	74,540	16,367	30,357	10,686	1,647	203				59,260
合　計	200,000	18,371	41,928	14,416	5,295	512	1,492	965	411	83,390

※　岡山産の第1回落札残数量（30トン）、千葉産の第2回落札残数量（1トン）、長野産の第3回落札残数量（7トン）、三重産の第3回落札残数量（1トン）及び青森産の第4回の落札残数量（12トン）については、最小申込数量（50トン）に満たないため、「指定なし」に繰り入れた。

②　国内産備蓄米の売渡数量

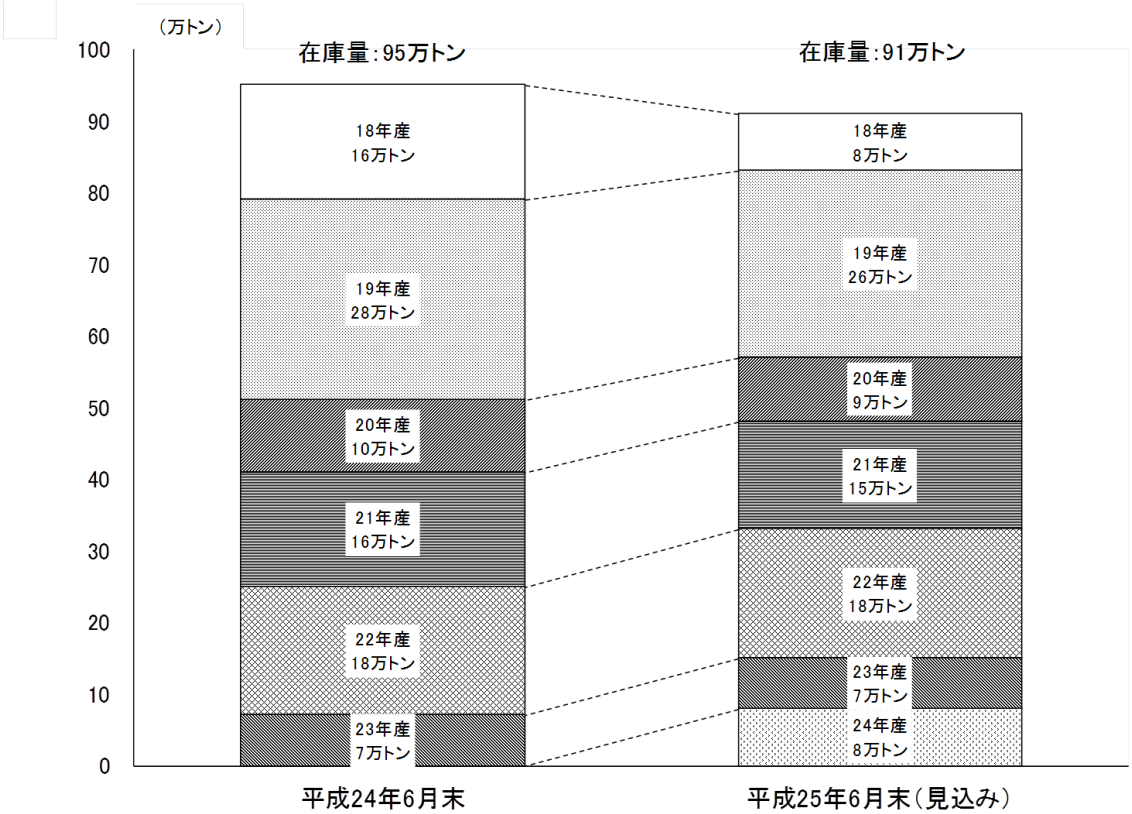
最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

（単位：千トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	―	―	―	―	3
23/24年	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」
注１：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。
　２：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。（平成23年2月まで）
　３：19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。
　４：平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

③　政府備蓄米の在庫の状況（平成24年6月末現在）



資料：農林水産省調べ
　注：1）うるち玄米の数量である。
　　2）平成24年6月末以降、平成23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給4万トン（平成19年産2万トン、平成20年産1万トン、平成21年産1万トン）について、平成24年8月末までに供給済となっているほか、平成18年産について、今後8万トンの範囲内で非主食用に販売する予定。
　　3）平成24年産については、8万トンの契約が済んでおり、平成25年3月末までに全量が政府へ引き渡される予定。
　　4）ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
　　5）在庫量は、年間需要量の約1.5ヶ月分相当である。

④　23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量（※）

（単位:トン）

産 年	申込数量	落札数量
19年産	50,507	20,000
20年産	47,565	6,300
21年産	79,285	13,700
計	177,357	40,000

資料:農林水産省「23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給について」から
※:①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと
②特別隔離対策（100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策）の対象となる米が市場隔離されることから供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン（震災による倉庫被災分2万トン程度＋特別隔離対策による隔離数量2万トン程度）の代替供給を政府備蓄米から行った数量
注1:平成24年6月26日入札実施
2:引取期限は平成24年8月31日

（2）　ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向

①　ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位:万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度（12月末現在）
米国	36	36	36	36	43	36	36	36	26
タイ	19	19	18	25	27	33	35	24	16
中国	10	9	8	8	7	7	2	6	4
オーストラリア	2	2	5	−	−	−	4	7	3
その他	10	11	10	1	0	1	0	4	1
合計	77	77	77	70	77	77	77	77	50
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	66	42
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	10	8

資料：農林水産省「ミニマム・アクセス米をめぐる状況」
※ＳＢＳ輸入数量の単位は万実トン。
注１：各年度の輸入契約数量の推移。なお、平成24年度については、入札結果を含んだ数値である。
２：実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。
（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米(加工原材料用)の販売状況(平成24年度)

(単位 : トン)

	うるち	もち
平成24年4～6月分 (平成24年3月12日、16日及び23日実施分)	21,047	−
4月分 (平成24年3月12日、16日及び23日実施分)	1,200	698
5月分 (平成24年4月10日、17日実施分)	799	62
6月分 (平成24年5月11日、18日実施分)	1,899	34
平成24年7～9月分 (平成24年6月12日、18日及び22日実施分)	23,666	−
7月分 (平成24年6月12日、18日及び22日実施分)	819	93
8月分 (平成24年7月10日、17日実施分)	1,108	67
9月分 (平成24年8月7日、14日実施分)	2,511	115
合 計	53,049	1,069
	54,118	

資料:農林水産省「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の定例販売の結果について」、「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成24年度)

(単位:トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回(平成24年9月25日)	一般米	6,280	0	40	0	12,056	0	4,124	0	22,500
	砕精米	428	216	598	244	208	0	806	0	2,500
第2回(平成24年11月6日)	一般米	8,968	558	0	0	2,800	0	10,174	0	22,500
	砕精米	2,400	0	0	0	0	0	100	0	2,500
第3回(平成24年12月18日)	一般米	6,674	414	1,132	72	11,824	0	2,384	0	22,500
	砕精米	248	252	1,300	0	0	0	700	0	2,500
合計	一般米	21,922	972	1,172	72	26,680	0	16,682	0	67,500
	砕精米	3,076	468	1,898	244	208	0	1,606	0	7,500
平成22年度計 (参考)	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450

資料:農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成23年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成24年度輸入米に係るSBSの結果の概要」